

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

磯子駅周辺は、公共施設や医療機関、スーパーなどの商業施設があり便利です。しかし、中高層住宅等では高齢者の孤立が目立ち、医療・食事・生活環境・経済的困難等の問題が多くみられます。
 駅から離れた丘陵地は、景観が良く、静かな住宅地が広がっています。しかし、公共交通の便が悪く、医療機関や商業施設が不足しているため、外出や買い物等の生活課題があります。
 また、令和元年12月に民生委員の交代があり、欠員の地区もあります。
 子どもに関しては、「子ども食堂」や区の事業である寄り添い型「学習支援事業」を通し、貧困・孤食などの問題が明らかになっているため、ボランティア中心で運営している、事業を支援します。
 また、更なる地域活動を推進するために、地域での見守りや介護予防、認知症予防、居場所づくりに努めていきます。そのための担い手支援も行います。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	小中学生の放課後の居場所としての「子ども食堂」や「学習の場」の運営を支援する。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	民生委員向けに研修会の実施。民児協前の聞き取りの継続。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	「セカンドライフプランニング講座」「いきいきライフ講座」の実施。参加者に対して、ボランティア活動の周知・声かけを行う。担い手支援交流会の実施。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	磯子浜東町内会、磯子浜西町内会、磯子山手町内会での介護予防教室の開催。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	高齢者虐待について、早期発見・適切な対応ができるよう、関係機関と連携を図る。 不適切な介護やネグレクト状態にある高齢者に対しては、タイムリーに関係機関と連携しながら、ネットワークミーティング等を開催し、支援方針の検討・情報共有を行い、支援体制の強化に努める。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度は、コロナ禍にあって、数々の制限を受ける中での事業実施となりました。「あれもこれもできない」というのではなく、「どのようにしたら何ができるのか」を常に念頭におき、感染防止に努めながらできる限りの事業を実施しました。
 『子育て支援』では、ボランティアを中心とした学習支援がさらに対象を広げ、学校との連携もできつつあります。引き続き、「子ども食堂」の運営や、「学習支援」の活動を後方支援していきます。
 『高齢者支援』の事業は、民生委員との連携が不可欠です。共に学ぶ機会を設けると同時に、必要な情報交換を随時行うことで、地域の方への支援の強化を図ることができました。
 『地域支援』においては、地域活動における「担い手不足」が地域の皆さまから課題として取り上げられることも多くありますが、今年度は、町内会活動から発展した「ちょこっとボランティア」のグループが立ちあがり、その活動に多くの方がボランティアとして手をあげられました。今後も、その活動が発展していけるように、ケアプラザは事務局としてボランティアと地域の方との橋渡しに努めます。
 『介護予防』教室は、会場の広さによってはコロナ禍で実施ができないことが多くありましたが、既存の教室の継続のために尽力しました。
 このような状況下においても地域での見守り活動や、ケアプラザと事業所との連携も進み、高齢者虐待防止にも取り組むことができました。
 さらに、今年度は、より暮らしやすい地域作りを目指すための、次の5年に向けた「地域福祉保健計画」の策定の年でもありました。コロナ禍で策定の進捗に遅れは生じていますが、多くの地域の方にアンケートにご協力いただいたり、幅広い分野の方が集まってワークショップを開催することもできました。この計画が、この地区にお住いの皆様为主体となり作り上げていくものとして定着していくように、ケアプラザはその周知と推進に努めていきます。

区からのコメント

新型コロナウイルス感染症の影響が大きくありながらも、さまざまな工夫や今後の検討をされていることで良い方向に実を結ぶことが多かったと思います。所内で良い連携がとれていることが、地域や関係機関とのよい関係づくりにもつながり、好循環になっていました。特に、コロナ禍で事業の展開が難しい中でも、地区診断や個別相談の分析を毎年行い、5職種で課題を整理し、次年度の事業展開に生かしています。
 地域福祉保健計画の策定にあたっては地域の方の意見をいただきながら、よい形で進められました。今後の計画の推進にあたっては、より地域の方の主体的な関わりを引き出しながら進めて行けるようなアプローチや取組をお願いします。
 また、多世代交流、担い手の支援体制構築も意識され、各事業もそれぞれ常に一歩前進するための取り組みがなされています。今後もコロナ禍で、対面の事業が難しい中、創意工夫をし、更に地域の方が「つながり」を維持継続できるような支援をお願いします。